

滋賀県では、戦後まもなく「日本の障害者福祉の父」と呼ばれる糸賀一雄氏や田村一二氏、池田太郎氏たちにより、近江学園で粘土を利用した造形活動が始まりました。

「この子らを世の光に」とは、糸賀一雄氏が残した言葉ですが、障害のある人が見せてくれる様々な気づきやふるまいを光とし、私たちが導かれる形で世の中を良くしていく、生きていくという意味が込められています。近江学園で始まった造形活動は、その思想とともに県内の福祉施設に受け継がれ、多くの人々が関わる中で、アール・ブリュットとして評価される作品も数多く見いだされてきました。

1946

障害のある児童等の入所・教育・  
医療施設「近江学園」の創設  
翌年より施設内での造形活動の取り組みを開始



造形活動の様子(右・糸賀氏)

1954

滋賀県の福祉施設が関わる展覧会が始まる

1981

「土と色」展の開催

滋賀、京都の知的障害のある人たちの造形活動とその作品を発表  
(以降18年にわたって京都市美術館等で開催)

2004

「ボーダレス・アートギャラリーNO-MA」の開設

障害のある人の表現を一般のアーティストの作品とともに展示  
※2007年、博物館相当施設の指定を受け  
「ボーダレス・アートミュージアムNO-MA」に改称



ボーダレス・アートミュージアムNO-MA

滋賀県施設合同企画展「ing...～障害のある人の進行形～」の開催  
障害のある人が日々の暮らしの中で生み出した表現のおもしろさや輝きを多くの人に伝え、感じていただく作品展を開始

2008

NO-MAと海外美術館との連携事業が始まる

アール・ブリュット・コレクション(スイス・ローザンヌ市)での「JAPON展」の開催/アール・ブリュット・コレクションの収蔵作品を展示する

2010

パリで「アール・ブリュット・ジャポネ」展の開催

パリ市立アール・サン・ピエール美術館/国内巡回展の開催

2011

障害のある人による公募作品展「ひかつtoアート展」の開催

県内の障害のある人の造形作品を広く公募し、作品展を開催



パリ「アール・ブリュット・ジャポネ」展  
オープニングの様子

04  
05

鎌江 一美  
1966年～ / 滋賀県在住

06-07

本岡 秀則  
1978年～ / 兵庫県在住

08-09

松田 僚馬  
1981年～ / 長野県在住

10  
11

古久保 憲満  
1995年～ / 滋賀県在住

12-13

戸次 公明  
1952年～ / 滋賀県在住

14  
15

比嘉 野歩治  
1978年～ / 滋賀県在住

16-17

八島 孝一  
1963年～ / 大阪府在住

18  
19

小幡 正雄  
1943-2010年 / 兵庫県

20-21

松本 寛庸  
1991年～ / 熊本県在住

22-23

谷口 ちよ子  
1951年～ / 滋賀県在住

24  
25

山崎 健一  
1944年～ / 新潟県在住

26-27

萩野 トヨ  
1938年～ / 滋賀県在住



—滋賀で生まれ育まれてきた  
アール・ブリュット